

多治見自警団（岐阜県）

活動地域と団体の概要

われわれが活動する多治見自警団のある岐阜県多治見市は、岐阜県の南部に位置しておりまして、愛知県に接しています。美濃焼に代表される陶磁器、タイルなどの焼き物を地場産業に持つ、人口12万人弱の町でございます。また平成19年8月には、国内観測史上最高気温の40.9度を記録いたしまして、日本一暑い町としても注目をされています。



平成17年9月17日、「自分たちの町は自分たちで守る」という思いのもと、62社の企業、総勢280人で設立され、同19日より夜間パトロールを実施しております。現在は個人の方も含め105社、472人の団体へと発展してまいりました。

発足にあたっては、事業所に防犯のポスターやステッカーを貼ればいいのか、車で巡回すればいいのか、といった意見も出ておりました。事業主にとっては、仕事を終えて帰宅した従業員を再度職場に呼び出し、残業手当も出ない夜回りをさせることが許されるのかという問題もふりかかってきました。

そんな中、お茶を濁すようなやり方は採用しない、徒歩でのパトロールに意味があるという初代加藤団長の強いリーダーシップに背中を押され、従業員にその目的を話すと、「やるべきです」「やりましょう」という頼もしくありがたい

言葉が返ってきました。

パトロールが始まると、「社会の役に立って、自分自身の健康にも良い」とか、「通りがかりの方からご苦労さまという声がとても嬉しかった」など前向きな意見も聞かれ、現在に至っています。

事業主が心配する以上に、社員たちは社会貢献への関心や、自分の勤める会社を守らなければという気持ちを持っていることをあらためて感ずることができました。

活動の概要～地域における活動



具体的な活動については追って説明してまいります、上に挙げたとおりです。団内の活動としてもここに挙げましたとおりですが、後ほどご説明をさせていただきます。

巡回パトロールは、市内を9班12コースに分け、472人の団員が午後9時から10時まで夜警をしております。まだまだ多治見全域を網羅できてはおりませんが、会員の拡大を行い、活動範囲を広げていきたいと考えております。



単に夜警をするだけでなく、実際に夜間歩くことで発見した危険箇所の改善活動も行っております。例えば夜間に見えづらい道路では、側溝のふたを市から支給してもらい、自分たちで敷設したり、暗い道路への街頭設置を町内会に報告したりしています。

最近報告が多いのが放置自転車で、持ち主が明らかな場合は自分たちで連絡を取ったり、不確かな場合には警察に報告したりしております。

巡回地域を中心に、廃屋、空き家調査を過去2回実施し、2棟の撤去をしていただいた実績もございます。巡回のみにとどまらず、町のイベントなどの警備も行っております。

平成20年には、会員企業に呼びかけ、社員数分の飲料水や非常食の備蓄を促し、多治見市と防災協定を締結いたしました。

また毎月コミュニティFMに団員が出演し、見回っている場所で気付いた町の危険箇所などを放送しています。



活動の概要～団内の活動、被災地支援

団内の活動としては、年1回総会を実施し、特に功績のあった団員を表彰しています。あわせて団員同士の交流と慰労を兼ねて会を催しております。

団名入りのマグネットシートを作成し、団員に配布しています。戸口や車に貼ってもらうことで防犯活動になりますし、団員の連帯意識の高揚にもつながります。

そのほか、防犯協会が発行するセーフティサポートを会員企業にFAX回覧したり、毎月1回自警団ニュースなどを発行しています。ニュースでは団員のパトロール日記や活動内容を紹介するほか団員企業のPRも行っております。

また地域の防災にとどまらず東日本大震災ののち、われわれ自警団として何ができるかを模索し、23年9月より団員に呼びかけ、東北の被災地視察に行っておりましました。団員の知り合いが、岩手県陸前高田市の避難所になった慈恩寺というお寺の住職であったこともあり、被災地の状況を詳しくお聞きすることができました。

その際、印象に残ったことは、被災直後は生活物資やそれを仕分けしたりするボランティアが必要になりますが、ある一定の時期を過ぎると、自立するために仕事を求めるということでした。

そこでわれわれとしては、議論を重ね、産業復興支援として「広田基金」を設立しました。多治見自警団の会員企業に呼びかけ、年1回、1口1万円として基金を募集し、広田漁港で採れる海産物を購入するというものです。さらに単年で終わることではなく、向こ

多治見自警団総会・優秀団員表彰式

- 毎年、団員の交流と慰労を兼ね開催
- 立食パーティー



各班1団員を表彰



団員マグネットシートの配布

- セキュリティシステムに換した意匠
- 戸口に貼付(防犯になる)
- 車両に貼付(団員の連帯意識)



東日本大震災視察

東日本大震災の被災地を視察し、被災者の生の声をお聞きし、これからの自分たちの生活に生かし何か支援できないか模索する。

- 平成23年9月23～25日
- 平成23年10月7日～9日
- 平成23年11月11日～13日

多治見22:00発 バス行
総勢 52名



「ひろた基金」

- 被災地 陸前高田広田町の産業である漁業の復興を願って、1口1万円 10年間海産物の購入



平成24年
1万円 147口
わかめ購入



う 10 年間にわたって実施するというのも大きな特徴です。ちなみに初年度となった昨年度は、147 社の募集があり、147 万円のワカメを購入し、広田漁協の方から大変感謝されました。

このような大きな予期せぬ災害が、われわれの住む町に起こったらと考え、団員に声掛けし、各企業で行っている、また検討している防災対策に関する意見交換会を実施しました。作っただけで放置していた防災マニュアルの見直しや、緊急連絡カードを作成している企業のひな形などを共有するなど、大変有意義な情報の共有ができました。

昨年内閣総理大臣賞を受賞することができましたが、受賞したプレートを地場産業であるタイルに転写し、団員全員に配布しました。この受賞におごることなく、「自分たちの町は自分たちで守る」ということを忘れることなく、われわれにできることを常に模索しながら、今後も活動をしていきたいと考えております。

以上で、多治見自警団の報告を終わりとさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。



質疑応答

●質問 企業の方で結成されているということですが、小学校単位などそれぞれの防犯団体があられると思うのですが、そういう方たちは参加されていないのでしょうか？

○回答 確かに各校区で実際に防犯をされていたり、子供たちの見回りをしたりする団体もごございます。連携は取り合ってはおり、個々で重複して活動している方もいらっしゃいますけれども、基本的には別組織として活動しています。

●質問 会社勤めを終えてからパトロールをするということに対して、参加される方から苦情というものはありませんでしたか？ これを毎日やるということは大変な負担だと思いますので。

○回答 実際に従業員に説明をして、賛同してもらえる従業員に参加をいただいています。もちろんご指摘のように無理をすると苦情も出てきます。ただし現状は、平均すると月に1回程度です。また大きな企業さんはたくさん参加者を出していただいていますから3カ月に1回あるかないかという負担の少ない状況にしています。この状況をご理解いただいた上で参加していただいています。